

要 望 書

圏央道神奈川県区間（高速横浜環状南線、横浜湘南道路、さがみ縦貫道路）の整備促進等

平素より、神奈川県のご国道等の整備につきまして格別の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

道路は、社会資本として多様な機能を担っており、国民生活の向上と国民経済の発展に大きな役割を果たしております。

今年3月に首都高速中央環状線が全線開通し、首都圏三環状道路の最初のリングが完成しました。これにより首都圏全体に様々な整備効果をもたらしています。首都圏中央連絡自動車道（圏央道）につきましても、神奈川県区間の「さがみ縦貫道路」が今年3月に全線開通し、周辺道路の交通量も減少し、企業立地が進むなど地域経済の好循環に大きく寄与しています。圏央道のストック効果をより発揮させるために、未開通区間を早期に整備する必要があります。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災においては、救援活動や支援物資の緊急輸送に主要幹線道路が大いに寄与したところであります。本県を含む南関東地域は、今後30年以内にマグニチュード7クラスの地震が発生する確率が70%程度と推測されており、防災・減災の観点からも圏央道と一体となる道路網の早期整備が不可欠であります。

さらに、日本の成長につなげるため「京浜港」や「羽田空港」の国際競争力の向上を図るため、県内各地区の骨格を形成する圏央道神奈川県区間の整備が急務であり、既に整備されている圏央道をはじめとしたネットワークを賢く、より効率的に活用できるようインターチェンジへのアクセス道路の一体的な整備の促進とネットワークの利用促進のための料金体系の構築を図る必要があります。

これらのことに鑑み、次の事項を強く要望します。

記

- 1 国づくり、地域づくりの根幹をなす真に必要な道路整備を積極的に推進するとともに、ネットワーク形成を図るための圏央道と一体的に整備が必要なインターチェンジへのアクセス道路の整備を促進するため、安定した財源を確保し、神奈川県をはじめとする都市部地区への重点的な配分をすること。
- 1 国の成長戦略及び地域経済の好循環、ストック効果を発揮する、国土の根幹的な施設である圏央道神奈川県区間のうちの未開通区間（高速横浜環状南線、横浜湘南道路）について、国及び各事業者は完成目標が遵守できるよう責任を持って執行管理し、早期の完成を目指し事業推進すること。
- 1 一番外側の環状道路である圏央道へ適切に交通が誘導されるなど、圏央道の内側エリアにおける首都圏の高速道路網が最大限利活用されるよう、一体的で利用しやすい料金体系の構築を図ること。

圏央道と一体的な整備を要望する路線

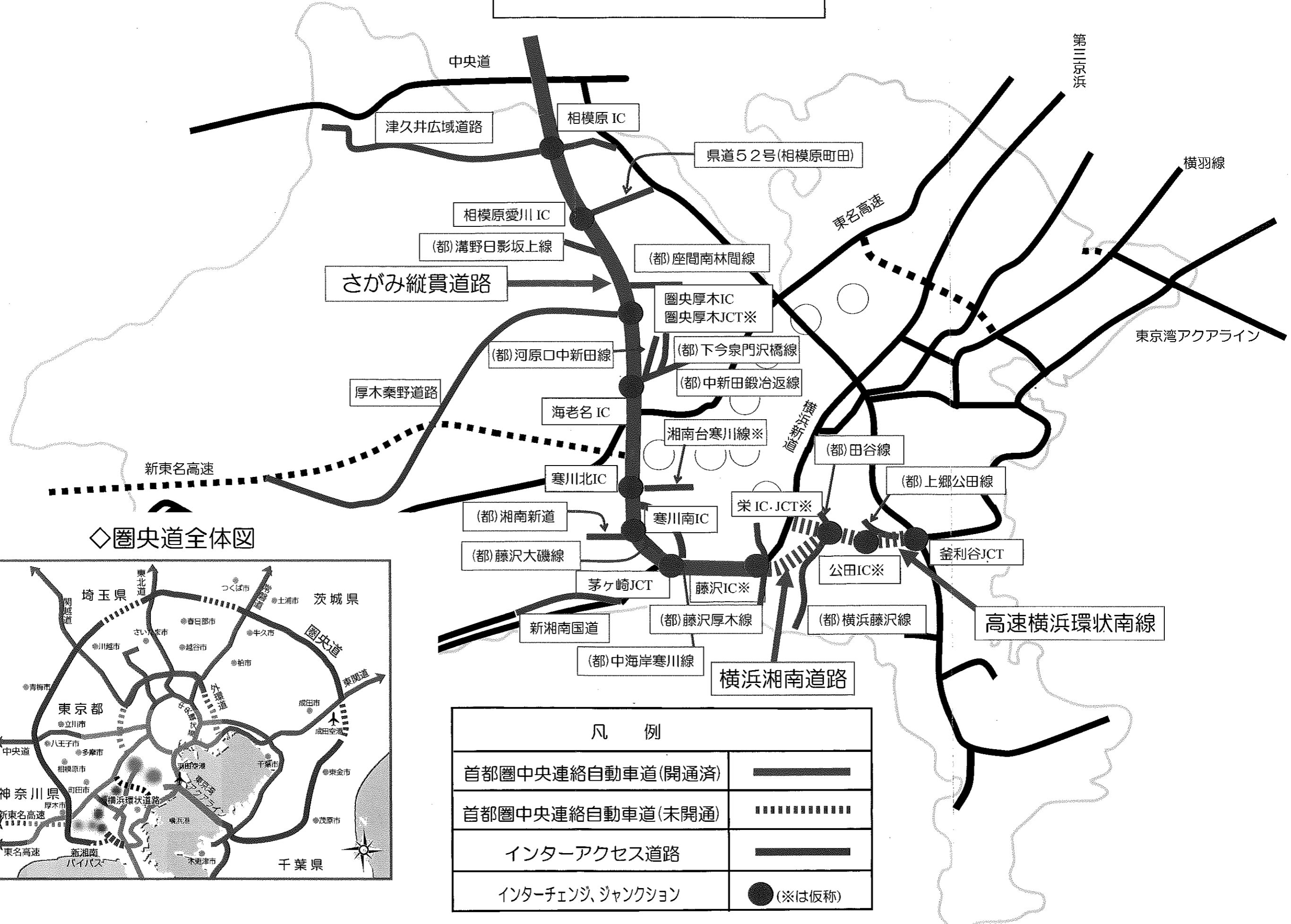
高速横浜環状南線・横浜湘南道路

- (1) (都)上郷公田線(主要地方道原宿六浦線バイパス)(仮称)公田インターチェンジ関連
- (2) (都)横浜藤沢線 (仮称)栄インターチェンジ関連
- (3) (都)田谷線 //
- (4) (都)藤沢厚木線 (仮称)藤沢インターチェンジ関連

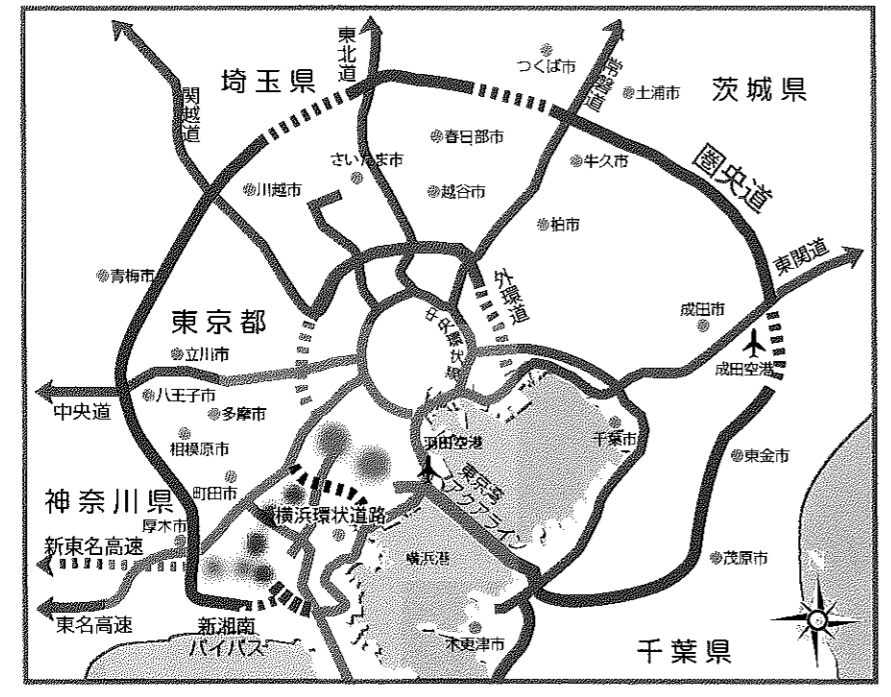
さがみ縦貫道路

- (1) 津久井広域道路 相模原インターチェンジ関連
(都)城山津久井線
(都)橋本相原線
- (2) 県道 52 号 (相模原町田) 相模原愛川インターチェンジ関連
- (3) (都)溝野日影坂上線 //
- (4) (都)座間南林間線 圏央厚木インターチェンジ関連
- (5) 厚木秦野道路 //
- (6) (都)河原口中新田線 海老名インターチェンジ関連
- (7) (都)中新田鍛冶返線 //
- (8) (都)下今泉門沢橋線 //
- (9) (仮称)湘南台寒川線 寒川北インターチェンジ関連
- (10) (都)藤沢大磯線 寒川南インターチェンジ関連
- (11) (都)湘南新道 //
- (12) 新湘南国道 茅ヶ崎ジャンクション関連
- (13) (都)中海岸寒川線 // (茅ヶ崎中央 IC)

要望路線図



◇圏央道全体図



凡 例	
首都圏中央連絡自動車道(開通済)	———
首都圏中央連絡自動車道(未開通)	
インターアクセス道路	———
インターチェンジ、ジャンクション	● (※は仮称)